

(4) 政策医療—骨・運動器疾患—における放射線技師の取り組み

田 仲 隆

THE MEASURES AND PROBLEMS RELATED TO PINE AND JOINT DISEASE
IN POLICY MEDICAL TREATMENT

Takashi TANAKA

近年、情報技術の発展はめざましく、多くの分野においてIT化が進み、われわれの生活にも浸透しつつあります。しかし当院でのIT化は日常の生活ほど進行しているとは言い難いが、病院としての取り扱う診療情報量は、今後、ますます増大することが予測され、ITの導入・推進が、急務かと思われる。診療放射線技師とITを考える上で、国が進める政策医療を実現し、地域の中核病院としての医療水準の維持・発展を図り、独立行政法人化を踏まえ、今後の医療のあるべき姿を考慮し、進めて行くべきと考える。

国立療養所村山病院は、骨・運動器疾患高度専門医療施設であり、神経・筋疾患の基幹医療施設でもある。

政策医療における診療放射線技師の取り組みについて

当院では平成13年7月に1.5TMRI装置に更新した。平成14年4月には、2台目の0.2Tオープン型MR装置が稼動している。オープン型MR装置の新規導入の目的は、関節部等の、動画的・画像の病態診断にあり、その補助具、キネマテックデバイス（動的運動機能補助具）も、ほぼ完成している。また、CT装置は、2列のディレクターを有するヘリカルCT装置が稼動している。このように、政策医療を行うための装置は、整備された。臨床研究については、診療科と協力し年間の成果を国立病院・療養所総合医学会に発表し、国立医療学会誌医療にも投稿している。教育研修については、これまで、医師、看護師の研修を行っており、診療放射線技師の研修も行う。

情報発信については、地域医療連携の一環として、放射線科の取り組みを、平成13年11月より近隣の医師会に

所属する医療施設に、CT, MR, 骨密度測定 of 画像検査案内を配布し、放射線科に直接、電話連絡で依頼を受けて検査を行っている。1ヵ月・約10名の検査を行っており、経営改善にも寄与している。

当院における診療放射線技師の
ITへの取り組みについて

平成13年3月に画像管理システムが導入され、画像サー

表1 国立療養所村山病院における政策医療「骨・運動器疾患および脊髄損傷」における診療放射線技師の取り組みについて

診療	○キネマテックMRIによる骨・運動器疾患の高度専門的な病態診断 ○脊椎管狭窄症に対するMRIを用いて高度な診断の専門的医療 ○脊髄損傷に対するヘリカルCT, MRIによる高度画像診断
臨床研究	○オープン型MR装置でのキネマテックデバイスの作成 ○MR検査における金属挿入部位の画像および生体への影響
教育研修	○先進的放射線診断機器の保守および管理 ○放射線技師を対象とした研修（平成15年度予定）
情報発信	○ホームページおよび院内メデアステーションの更新 ○メーリングリストを利用した政策医療ネットワーク施設間での情報交換およびデジタルX線画像の配信 ○地域医療連携にとまない、CT, MR, 骨密度測定検査案内の配布（武蔵村山医師会、東大和医師会）
機器整備状況	オープン型MR(0.2T)装置, MR(1.5T)装置, ヘリカル2DCT装置, CR装置, 骨密度測定装置（前腕用, 全身用）, X線断層装置

国立療養所村山病院 National Murayama Hospital 放射線科（現：国立がんセンター東病院）

Address for reprints: Takashi Tanaka, Department of Radiology, National Cancer Center Hospital East, 6-5-1 Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba 277-8577 JAPAN

Received March 4, 2003

Accepted July 18, 2003

バで CR, MR, CT 画像の保管管理を行っている。また、放射線情報管理システム F-RIS には、医事会計システムより患者情報の供給を受け、検査撮影オーダーの入力は依頼伝票用紙より、放射線科受付にて入力している（オーダーリングシステムは未整備）。撮影済みフィルムの紛失、払い出しの不明等のトラブルがあり、撮影済みフィルムの放射線科からの払い出しに際し、コンピューターでの管理を導入し、トラブルの大幅な減少になっている。6月に高精細モニターを医局に設置し、画像計測等を可能にした。

政策医療, IT に関する

今後の課題と問題点について

「政策医療の質の評価の実施」臨床評価・指標への関与について、現在、各政策医療分野のネットワーク・中心施設の担当者を、座長として「臨床評価・指標作成ワーキンググループ」を構成し、臨床評価・指標（案）の作成にあたって

いる。当院でのワーキンググループに参画することができ、診療放射線技師として、4項目について臨床評価・指標案を提出した。①放射線科における、骨・運動器疾患診断のために、具備すべき装置についての評価。②装置別稼働状況など、成績についての評価。③安全性の確保、検査精度の維持についての評価。④検査待ち日数の評価。

保険医療情報システム検討会、保健医療分野の情報化にむけての、グランドデザインの最終提言では、医療の課題を、情報提供、質の向上、効率化、安全対策の4項目に分け、対応するIT活用手段を明記した。とくに、電子カルテシステムの活用がそれぞれの課題に有効性を示している。オーダーリングシステムは利便性、効率化だけでなく、安全対策、伝達ミスの防止、入力・処方ミスの、チェック効果も期待できる。施設規模等により整備内容に開きがあるが、当院におけるオーダーリングシステムの導入には、次世代のフィルムレス化、電子カルテシステムに即応するために RIS・PACS での検討が必要である。臨床研究発表等の継続性については、常に診

表 2 国立療養所村山病院における診療放射線技師の IT 化への取り組みについて

平成13年3月	Synapse システム（画像管理システム）の導入 ○画像サーバの設置（CR 画像, MR 画像, CT 画像の管理） ○高精細、液晶モニター各1台（放射線科設置, 医局設置予定） ○F-RIS ・医事会計システムより撮影患者情報（氏名, ID, 性別, 生年月日）の供給 ・オーダー入力は放射線受付にて検査依頼伝票用紙より入力 ○コンピューター管理による撮影済みフィルムの払い出し
平成14年6月	○高精細モニター医局に設置
平成14年度整備要求	・デジタル画像システム（PACS）一式
平成15年度整備要求	・デジタル画像システム（PACS）一式
平成14年2月	オーダーリングシステム準備委員会への追加要求事項（今年度整備なし） 放射線オーダー（HIS）に関して ・オーダー端末にて、放射線科内既設画像サーバに保管されている Web 画像を直接参照 放射線部門システム（HIS）に関して ・オーダー端末にて、放射線科内既設画像サーバに保管されている Web 画像を直接参照 ・既設撮影装置と接続でき、撮影情報を各装置へ送信、実施情報を装置側より取得 ・医事会計システムより放射線部門の診療点数、件数等の取得
平成14年8月	医事課システム更新にともなう放射線科（F-RIS）からの要望事項 ・現状の撮影患者情報（氏名, ID, 性別, 生年月日）さらに入院、外来の区別と病棟名の表示 ・本省、厚生局への提出書類（集計業務, 年計, 年度計, 月計）の作成

表 3 医療の課題とその解決を目的とした情報化（情報化にむけてのグランドデザイン）

医療の課題	
情報提供	・電子カルテシステム ・レセプト電算処理システム
質の向上	・根拠に基づく支援 ・電子カルテシステム ・遠隔診療支援
効率化	・電子カルテシステム ・オーダーリングシステム ・レセプト電算処理システム ・個人・資格認証システム ・物流管理システム
安全対策	・オーダーリングシステム

療と一体となり、自己啓発も含めて、継続していく必要がある。

（平成15年3月4日受付）

（平成15年7月18日受理）